

# 水稲におけるアメリカザリガニの被害状況 の把握及び捕獲用わなの検討

上田農業農村支援センター  
竹澤弘行 近藤武晴 荒木達雄 ○飯島 志帆

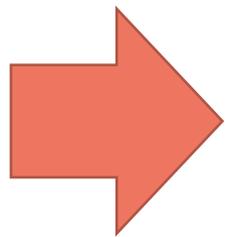
# 1. 背景

## アメリカザリガニが持ち込まれた経過

昭和2年（1927年）に食用のウシガエルの餌として27匹持ち込まれが、人間の勝手な理由で捨てられて増えていった。



ザリガニを捕まえても・・・



ペットとして飼えなくなって放流

# 1. 背景

## ○東御市北御牧地域

- ・降水量が少なく、昔から水不足に悩まされており農業用のため池も多い。
- ・主には蓼科山からの用水が使われているが、水は自由に使えないため**水がとても貴重**



# 1. 背景

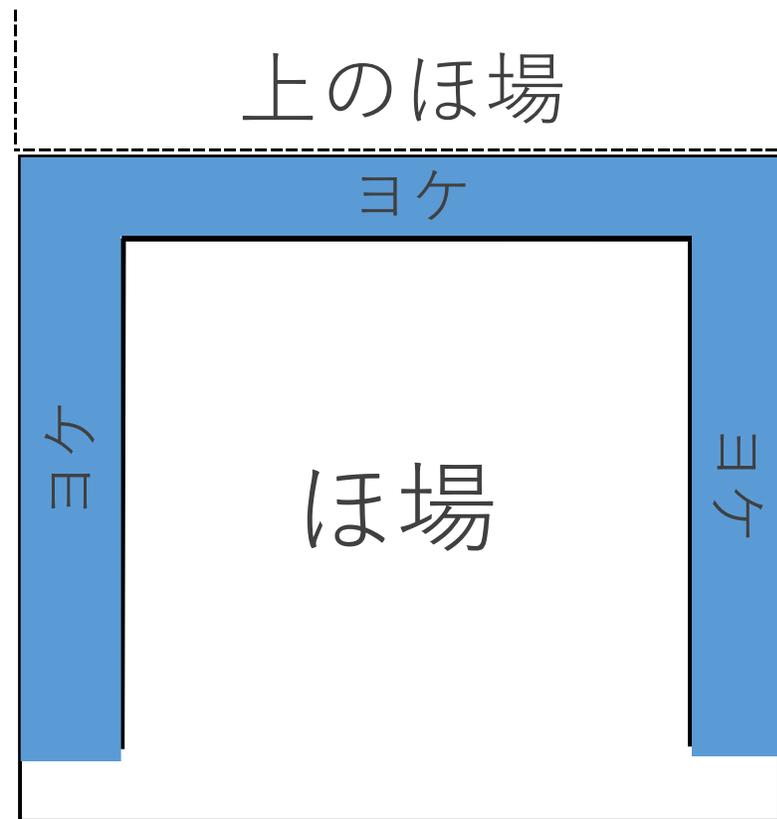
- 土は強粘土質で、水はけが悪い。



- 春や秋の水のない時の作業がしづらい。



- 作業性を上げるため、「ヨケ」がある水田が多い。



※「ヨケ」とは、排水対策のために水田のふちに掘られる溝のこと。  
明渠のようなもの。

# 1. 背景



春先にザリガニが水面に浮いてる様子



網で捕まえた時のザリガニ

# 1. 背景

## 巣穴による漏水被害



**水の必要な時期に水がなくなってしまう！！**

# 1. 背景

## 水稻の茎葉切除の被害



# 1. 背景

被害なし



被害あり



# 1. 背景

しかし・・・

- 登録されている農薬が少ないため、薬剤での防除が難しい
- 全国的に見ても水田における防除事例がない
- ザリガニの生態が不明



課題

有効な防除体系が確立されていない！

## 2. 活動経過

### R3年度試験内容

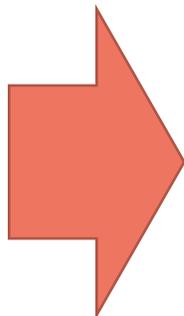
- ・アンケート調査の実施
- ・捕獲用わなの比較試験



人工巣穴



捕獲用わな



- ・被害は一部の地域（八重原地区）に集中している。
- ・ペットボトル製の捕獲用わなの有効性が確認された。

## 2. 調査内容

R4年度:ペットボトル製捕獲用わなの継続的調査を実施

(1) 設置場所



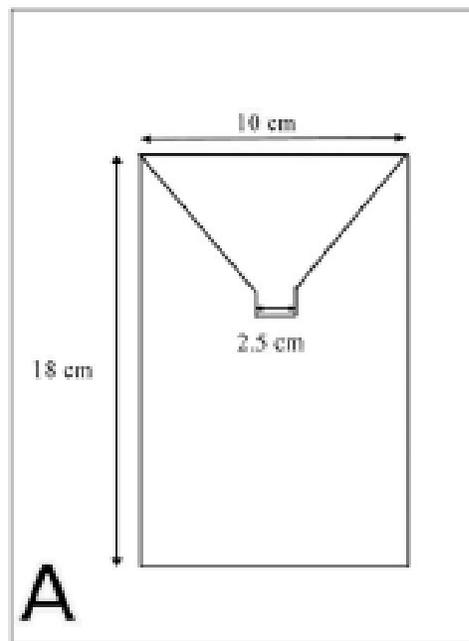
(2) 設置期間

(3) 巣穴数の調査



## 2. 調査内容

# 調査に用いたペットボトル製捕獲用わな



「外来種アメリカザリガニの駆除に用いる  
ペットボトル製トラップの検討」より

## 罠に入れるもの

- 水切りネットにいれた煮干し
- おもりの石

※トラップ作成については岡山大学 中田氏らを参考

## 2. 調査内容

### (1) 設置場所の検討

試験区	ヨケ		罨数
	有無	水深	
①ヨケ有（浅）	有	10cm	ヨケ内 5 個 ほ場内 8 個
②ヨケ有（深）	有	20cm	ヨケ内 6 個 ほ場内 3 個
③ヨケ無（対照区）	無	—	ほ場内 6 個



## 2. 調査内容

### (2) 設置期間の検討

- 短期間（3時間程度）と長期間（7日間）で、捕獲数を比較
- 設置場所はヨケのみで、わな数6個



## 2. 調査内容

### (3) 巣穴調査

- ・7日間ごとに畔に掘られた新たな巣穴に色別の割りばしを刺して、巣穴数を計測



### 3. 調査結果

#### (1) 設置場所の結果

各ほ場におけるザリガニ捕獲数の推移 (匹)

ほ場 (区)	調査日							
	7/5	7/12	7/21	7/26	8/2	8/10	8/16	8/24
①ヨケ内(浅) 水深10cm	4	3	3	2	3	2	8	3
①ほ場内	6	1	3	6	1	0	5	2
②ヨケ内 (深) 水深20cm	10	12	3	11	10	5	4	17
②ほ場内	11	1	2	0	0	1	2	8
③ヨケ無 (対照区)	3	0	0	2	2	0	0	2

### 3. 調査結果

各ほ場の捕獲数の合計と罫1個あたりの捕獲数

ヨケの水深が深い方が2倍も捕獲数が多い！

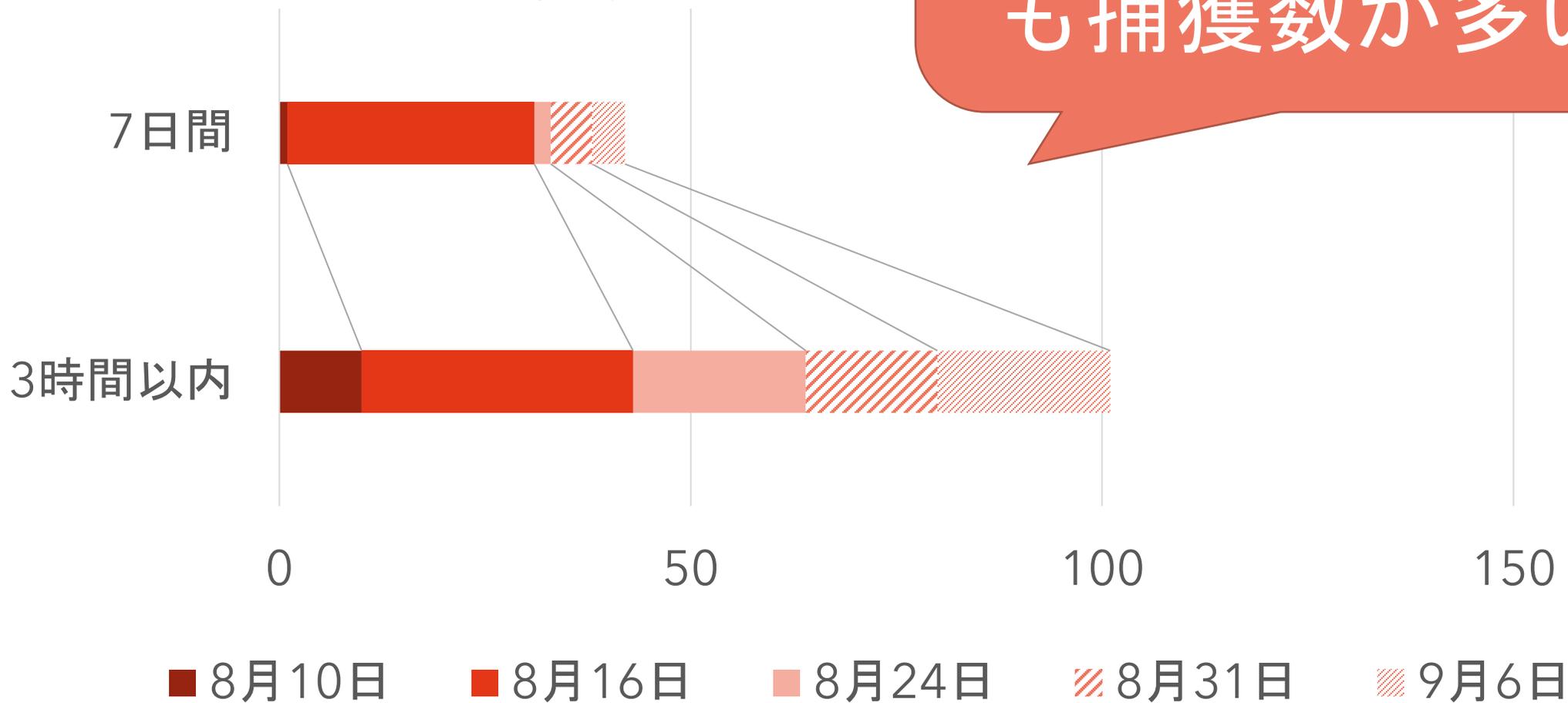
試験区	合計数	1わなあたり 合計数
①ヨケ内（浅） 水深:10cm	28	5.6
①ほ場内	24	3
②ヨケ内（深） 水深:20cm	72	12
②ほ場内	25	8.3
③ヨケ無 （対照区）	9	1.5

### 3. 調査結果

## (2) 調査期間の結果

調査期間による捕獲数の比較

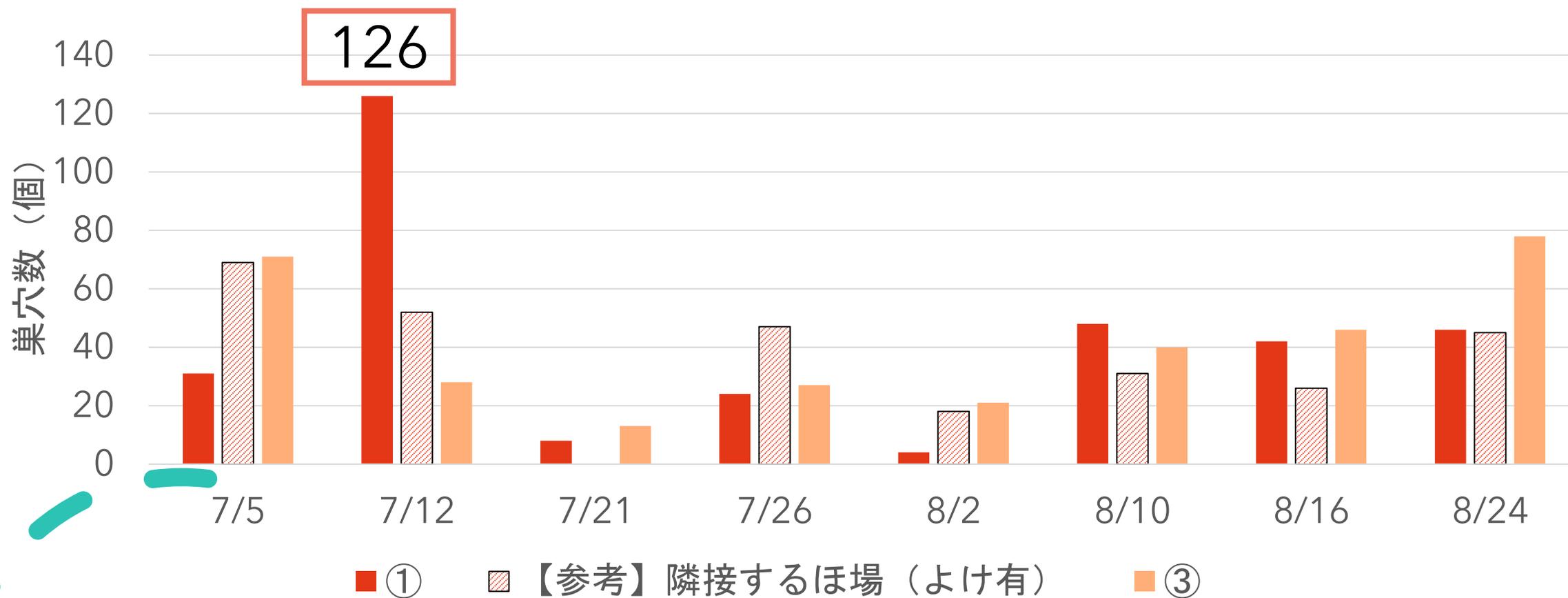
短期間より長期間  
の設置の方が2.4倍  
も捕獲数が多い！



# 3. 調査結果

## (3) 巣穴調査の結果

### 巣穴数の推移



### 3. 調査結果



**隣接したほ場に貫通した巣穴(8/10)**

## 4. まとめ

### 捕獲調査

- 設置場所

ヨケ内の水深が深い場所に設置する方が捕獲数が多い

- 設置期間

捕獲用わなからの脱走や共食いの発生もあり、短期間での設置が有効

- 捕獲用わな

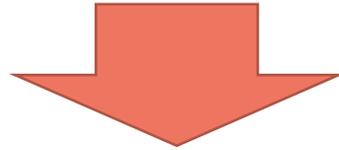
返し等の工夫をするとより多くの個体を捕まえられる。



## 4. まとめ

### 巣穴調査

- 7月より8月の方が巣穴の大きさが大きい
- 8月以降には隣接するほ場に貫通している巣穴もある。



- 漏水のリスクは非常に高い
- 漏水した場合、穴をふさぐのにはかなりの労力がかかると考えられる。

## 4. まとめ

### ・越冬調査

12月に行った越冬調査では、卵を持ったメスのザリガニがヨケから発見された。



ヨケが越冬場所となっていることも確認された。



冬眠前や春先の防除が効果的

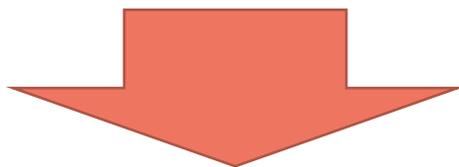
## 5. 今後の課題

### 被害の把握

- ・被害面積などの算出
- ・巣穴を埋める労働時間

### 被害軽減対策

- ・より有効的な捕獲用わなの検討
- ・巣穴を作らせないための対策
- ・冬眠前又は春先の防除方法の検討



八重原土地改良区との連携  
検討会の開催

A small brown crayfish is the central focus, positioned in a glass tank. The crayfish has two long antennae and two prominent claws. The tank contains a layer of light-colored sand at the bottom. In the background, there is a white mesh filter and a reddish-brown ceramic object. The Japanese text "ご清聴ありがとうございました。" is overlaid in white at the bottom of the image.

ご清聴ありがとうございました。